

<調査の実施概要>

調査方法: WEBアンケート調査

調査期間: 2021年2月下旬

スクリーニング対象者数: 34,451サンプル

本調査: 1,500サンプル(過去1年以内の遊技経験者)

※スクリーニング・本調査いずれも性・年代の人口構成に合わせたウェイトバック集計を実施

調査エリア: 2大都市圏を中心に政令指定都市を含む道府県、その他地方を合わせた全国47都道府県

パチンコ・パチスロプレイヤー調査2021

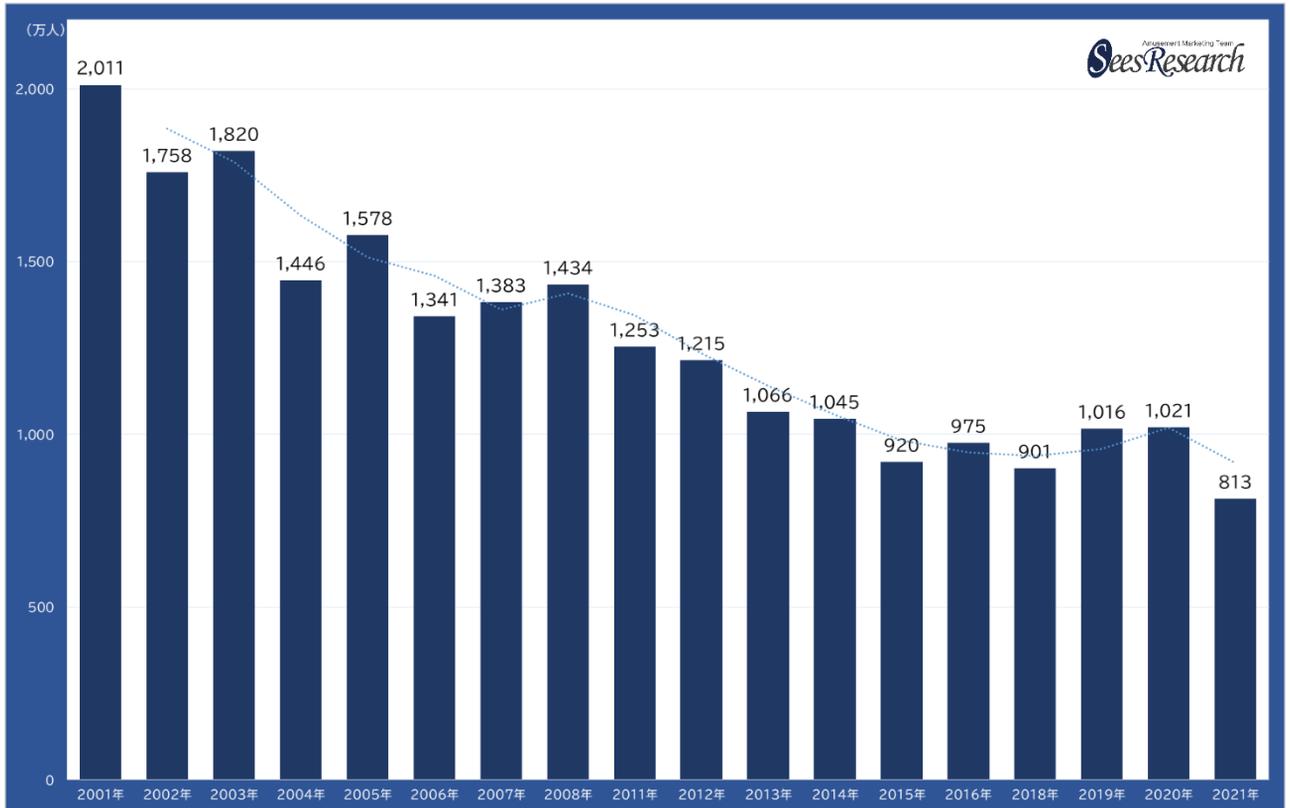
【企画・実施】株式会社シーズ シーズリサーチ

【共同調査】EBI/APJ

【パチンコ・パチスロプレイヤー調査2021 調査結果速報】

参加人口(全体)

■パチンコ・パチスロ全体



2021年の遊技参加人口は、約813万人。

昨年比で約208万人の減少となった。

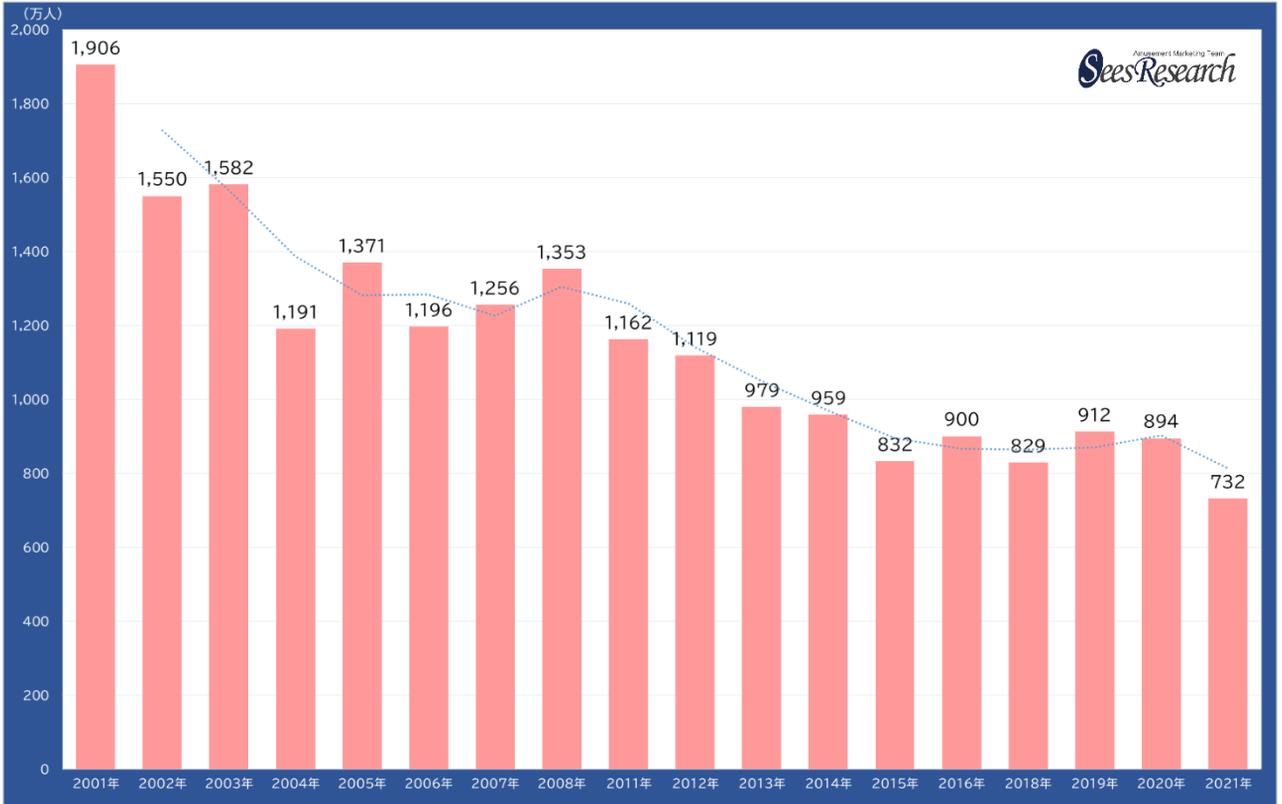
年代別では、20代以下の参加率が4.5%減少。

30代が2.9%減少と若年層の参加率の低下割合が高齢層に比べ高まっている。

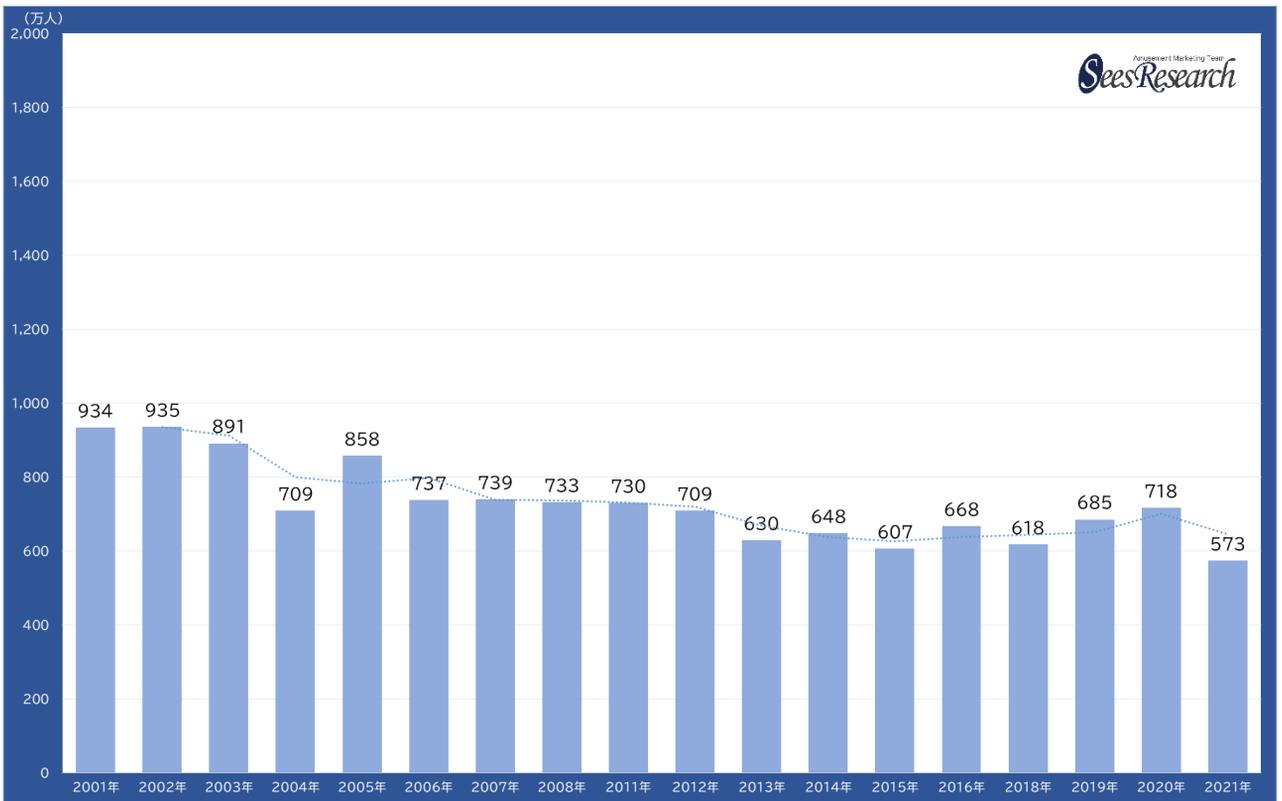
また、パチンコ・パチスロ遊技別の参加人口は、パチンコが約732万人(約162万人減)、パチスロが約573万人(約145万人減)となり、近年増加傾向にあったパチスロも大きく参加人口が減少した。

2020年は、「新型コロナウイルスの影響」「4月に改正健増法が全面施行されたことによる屋内原則禁煙」「新規則機移行による遊技機問題」など、パチンコ・パチスロ遊技者にとっても生活や遊技環境が大きく変化した年であり、こういった背景も参加人口が大きく減少した要因であると考えられる。

■パチンコ



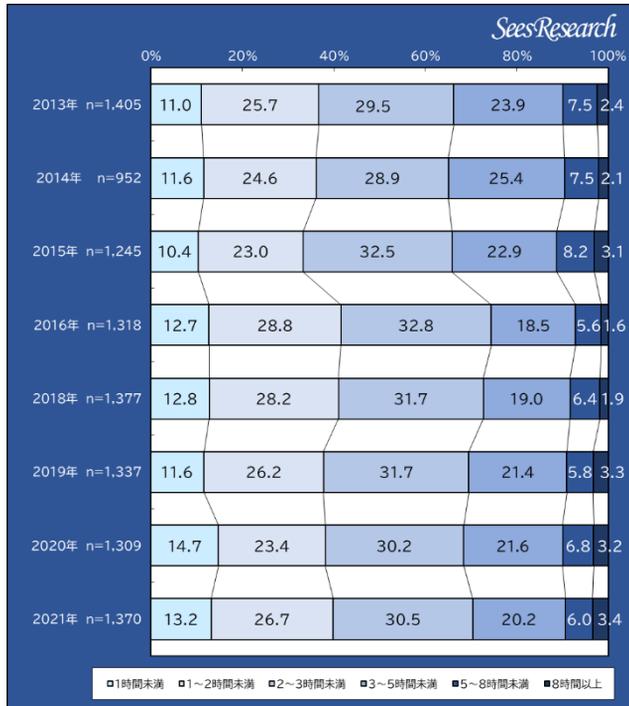
■パチスロ



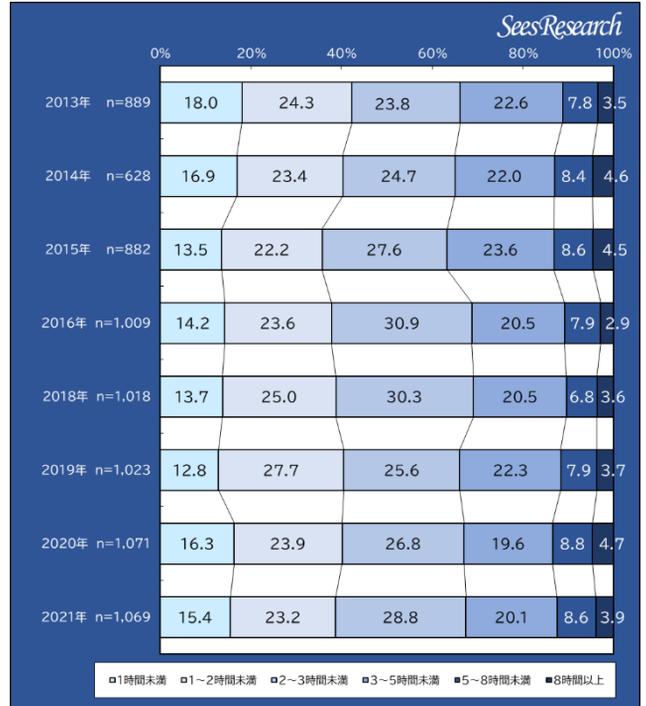
【パチンコ・パチスロプレイヤー調査2021 調査結果速報】

平均遊技時間

■パチンコ



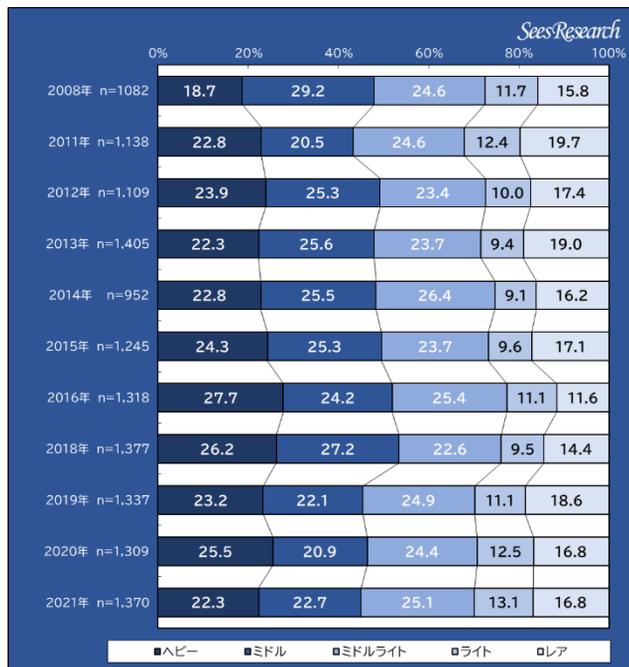
■パチスロ



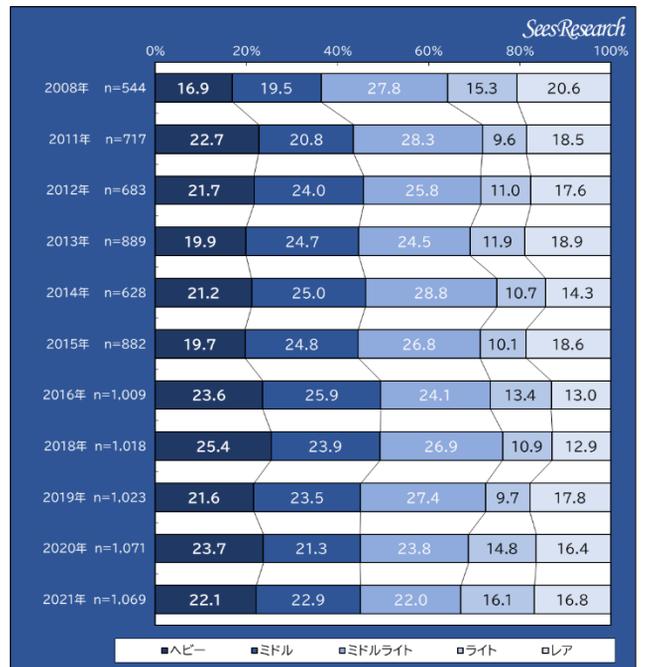
パチンコ・パチスロともに構成割合に大きな変化はないが、パチンコで1~2時間未満の割合が微増。パチスロでは、2~3時間未満の割合が微増した。

平均遊技頻度

■パチンコ

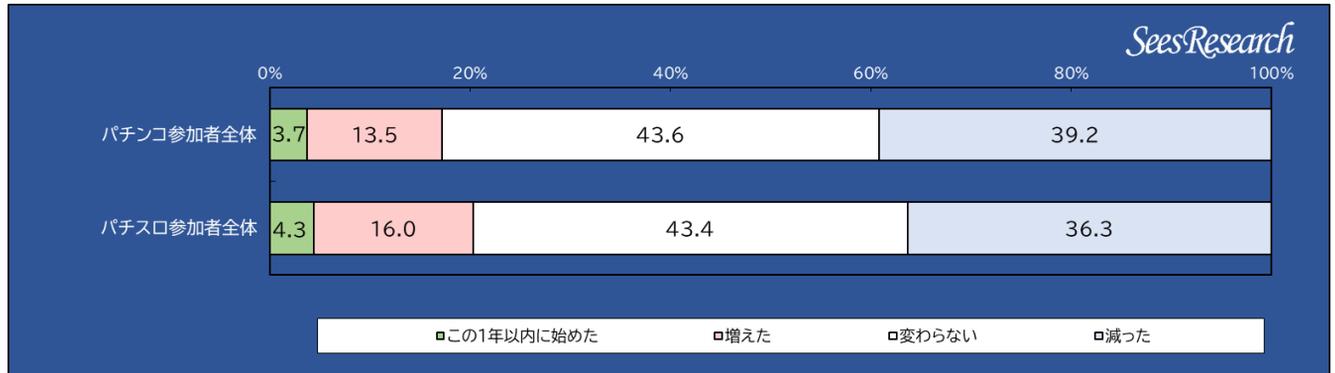


■パチスロ

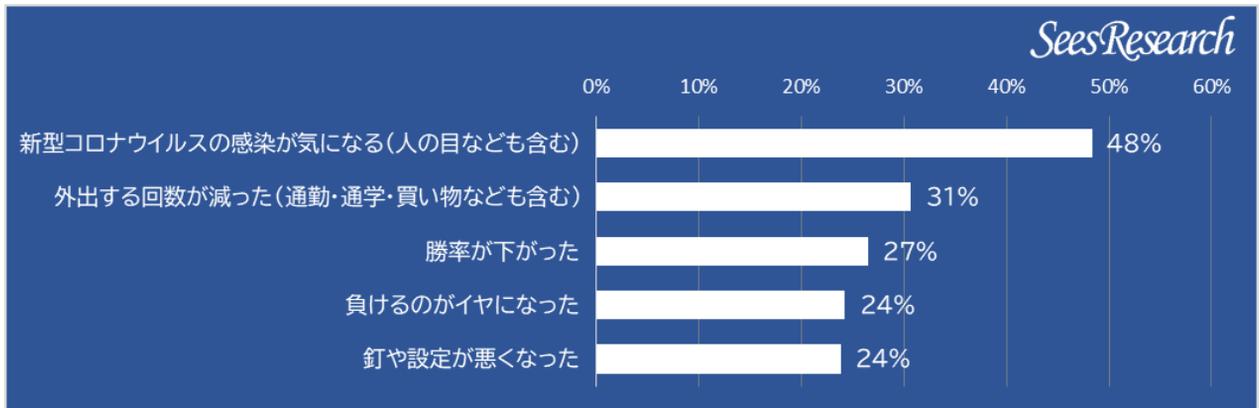


パチンコ・パチスロ共に、ヘビー層の割合が低下傾向。その他の層は、割合が同程度か微増傾向にあり、全体的に遊技の低頻度化がみられる。

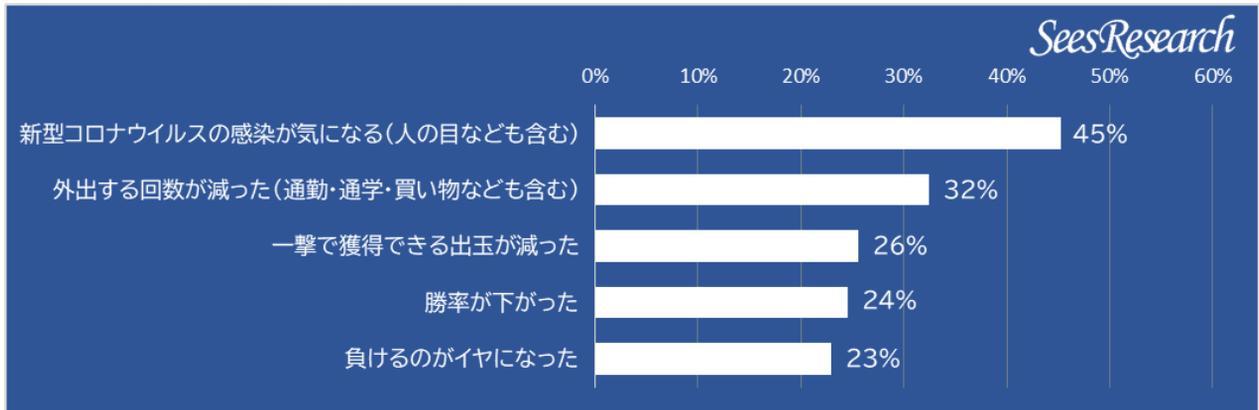
■パチンコ・パチスロ全体



■パチンコ 遊技頻度が減った理由



■パチスロ 遊技頻度が減った理由



前年と比較した遊技頻度の増減は、パチンコ・パチスロともに「変わらない」が最も高いが、増減でみると「減った」割合はパチンコで約39.2%、パチスロで36.3%と減少の割合も高い。

また、年代別では、年齢が高くなるにつれ減少割合が増加傾向にある。

遊技頻度が減少した理由として、「新型コロナウイルスの感染」や「外出する回数の減少」が3割を超え、新型コロナの影響を大きく受けた結果となった。

その他、勝率や勝敗に関する項目は、例年通り上位となっている。

一方、「増えた」と回答した理由で最も高かったのはパチンコ・パチスロともに「パチンコ店が禁煙・分煙になった」で、「たばこ」を取り巻く遊技環境が変化したことで、一定数の遊技頻度の増加につながったとも考えられる。